

令和 6 年度 小林市立幸ヶ丘小学校 自己評価書

4 段階評価： 4 期待以上 3 ほぼ期待どおり 2 やや期待を下回る 1 改善を要する

学校経営 ビジョン	「幸せ」いっぱい 児童が「幸せ」	みんなの学校 教師が「幸せ」	保護者・地域が「幸せ」
--------------	---------------------	-------------------	-------------

項目	本年度の重点目標と 目標達成のための手段	具体的な数値 目標等	具体的な取組	自己評価		結果の考察及び改善対策
				取組別	総合	
知 育	重点目標： 学力向上の推進 【手段】 1 一人一人に応じた きめ細かな指導の 充実と「わかる・ できる授業」づくり	1 ○NRT・CRT 学 力調査全国・ 県平均以上 ○単元テスト 80 点以上	① 複式解消非常勤講師及び教頭による複式解消 ○ 複式解消非常勤講師＝3・5 年算数、 4・6 年国語を担当 ○ 教頭＝1 年算数、2 年国語を担当 ○ A 年度・B 年度指導（国・算以外） ② 個別指導の充実 ○ 一人一人の学力分析による実態把握と個に応じた 指導 ③ フロンティアタイムによる学力向上 ○ 月曜朝の活動の時間（8:30～9:00）における国語・算 数の学力の定着・向上 ○ フロンティア学習週間（9 月末・2 月末）におけ る管理職も参加しての補充学習 ④ 研修の充実・授業力向上 ○ 「ひなたの学び」の推進 ⑤ ICT の活用 ○ ICT 支援員との連携による教師の ICT 活用能 力・指導力の向上と児童の ICT 活用能力の向上 ○ 情報モラル教育等の実施 ○ PC スキルアップタイムで児童のスキルアップ（火 ・木・金の 8：05～8：15） ○ スマイルネクストなどの活用	3		○複式解消の成果もあり、児童の学力向上につながっ た。また、担任の負担軽減にもなった。 ●児童が苦手とする単元に関して、教材研究を行い、 さらに細かい個別指導を行う必要がある。 ○タブレットの活用により、児童の意欲向上が図れた。 さらなる学力向上をめざして、スキルアップをする 時間も必要だと感じた。また、週 1 回のタブレット 持ち帰りが定着してきたのはよかった。 ●フロンティアタイムでは、時間もなかなか取れない 上に、問題集の問題を解かせるだけの時間となって しまったため、細かな取組の計画が必要であると考え られる。 ○ICT 支援員との連携がしっかりとれ、授業を行って いただくことによって、情報活用能力及び情報モラ ルの理解向上につながった。 ●朝の会と重なる PC スキルアップの時間がなかなか 取れないため、次年度校時程の見直しが必要である。 ○スマイルネクストを宿題で活用することができた。
	2 小中一貫教育の 推進と一人 1 研究 を通した授業改善	2 ○一人 1 授業の 実施 ○小中一貫教育 の推進	① 職員研修・主題研究の充実（新しい研修制度の記録） ○ 一人 1 研究による授業力向上 ○ 一人 1 研究授業の実施 ② 小中一貫教育の充実 ○ 西小林中学校区での授業参観	2		○一人 1 授業を行うことで、お互いの授業を参観する ことができ、「ひなたの学び」について考えることが できた。 ●主題研究の長期的な計画が示されず、全体として研 究の深まりがあまりなかった。 ●授業参観日の期間が短く、無理に授業を行わなけれ ばならない状況があったので、もう少し期間を長く して取り組んでもよかった。 ●中々、他校の授業を参観することができなかった。
	3 キャリア教育の 充実	3 ○「こすもす科」 100％実施 ○地域人材活用	① 「こすもす科」の計画的な実施 キャリア教育のねらいをふまえた「こすもす科」の 授業の完全実施 ② 地域人材活用 ○ 「KSSVC」を活用しての地域人材による授業 や活動の充実 ○ かおる幼稚園との連携（交流・職場体験）	2	3	○幸っこフェスタにおいて、地域の人材を活用した たみ製作活動や地域の方々、市議会議員、SVC の 方、警察の方等をおよびして、熟議（話し合い）を 行い、今後の未来について考えることができた。 ●地域人材活用について、もう少しいろいろなことを 知っておく必要があった。 ○かおる幼稚園との連携を図ることができた。 ●コスモス科でのキャリア教育はかおる幼稚園訪問だ けになっているので、検討も必要である。
	4 読書活動の推進	4 ○年間読書冊数 一人 100 冊以 上	① 学校図書館協力員による図書室整備と蔵書の充実 ○ 継続的な図書室整備と計画的な図書購入による蔵 書の充実 ② 朝の時間の活用 ○ 朝の読書の実施 ○「幸ヶ丘読み聞かせ生駒」や職員、西小林中学生に よるオンライン読み聞かせを通した読書への関心意 欲の向上 ③ ノーメディア・読書量アップ週間（年 4 回） ○ 家庭と連携した読書の充実とメディアへの接触時 間の削減 ④ 家読の推進 ○ 家庭での読書推進の啓発 ⑤ 図書館の保護者開放・貸出	3		○週 1 の図書館協力員の来校により、図書室整備を行 うことができた。 ○定期的に読み聞かせが行われ、本への意欲、読書の 意欲が高まった。また、中学生とのオンライン読み 聞かせも少しずつ定着してきている。 ●ノーメディア・読書量アップ週間を計画的に行えた が、改善策を提示することができなかった。ノーメ ディアの週間に合わせて体力アップ週間をするのも いいかなと思った。 ●家庭で親子がより積極的に読書をするための方策を 考える必要がある。まずは保護者や先生が読む姿を 児童に見せて、一緒に読む機会を設定するとよい。
	5 家庭学習の充実	5 ○家庭学習の確 実な見届け ○「家庭学習チャ レンジ週間」の 活用と学習状 況のチェック	① 担任による確実な見届け ○ 個に応じた課題 ○ 学習意欲を喚起するための提出物への確実な見届 けと称賛 ② ノーメディア・読書量アップ週間に「家庭学習チャ レンジ週間」を実施。 ○ 家庭学習の手引きを活用 ○ 家庭での振り返り状況の把握と対策	3		○担任を中心に課題の確実な見届けを行い、やり直し を行わせた。また個人に応じた指導を繰り返し行う ことで、定着が少しずつ図れた。 ●個人差があるため、宿題の量などを調整する必要が あった。個人差に対応した課題作成も必要と思うが、 なかなか難しい状況がある。 ●家庭学習の手引きを、4 月の懇談で知らせることが できたが、なかなか浸透せず、振り返りが活かされ なかった。
徳	重点目標： 豊かな心の教育の推 進 【手段】 1 西小林中校区のき まり定着 100％と 集団規律の徹底	1 ○「学習・生活の 構え」について の意識の高揚 （立腰及び鉛筆の 正しい持ち方定 着 100％）	① 全職員による共通実践と意識の継続化 ○ 全職員による重点指導事項の共通理解・共通実践 ○ 常時指導（意識付けの言葉かけ等）による立腰・ 鉛筆の持ち方の徹底 ○ 無言の場・集団行動時の規律等の徹底 ② 基本的生活習慣の確立 ○ 3 校合同生活目標の具体的指導	3	3	○学校生活における児童の活動の中で、きまりなどが 曖昧に理解して行動する部分が多かったが、指導を 行うことで少しずつ改善されてきている。 ●常時指導において、教師がもう少し意識した指導を 行い、児童にも意識した行動をさせたい。 ●共通実践事項において、学校の規則などまだ検討の 必要がある内容があるので、今後修正していきたい。

育	2 体験活動の充実	2 ○栽培活動の推進 ○各種教室の実施	① 栽培活動との関連を図った指導の充実 ○ 食への関心の向上 (梅ちぎり活動・サツマイモや野菜の苗植え・栽培・収穫など) ② 外部機関による食体験の充実 ○ モーモー教室や味覚の授業等の実施を通した食の体験の充実 ③ PTA と連携した体験学習 ○ 魚のつかみ取り大会・魚のさばき方教室の実施	3		もっと詳しく指導してほしいと感じた。 ●箸の持ち方がまだ上手にできていない児童がみられるため、継続して指導、見守りを行う必要がある。 ○残食も年度当初と比べると減ってきている。 ○栽培活動は、積極的に行うことで、児童も興味関心をもって取り組むことができた。 ●栽培活動について少人数で毎年行うには結構な労力がかかるため、隔年または活動を精選して行うとよいのではないかと思う。 ●つかみ取り大会は、子ども達の一番の楽しみではあるが、準備の段階でプール掃除があり、その活動のためだけに行うのは負担であるので、今後検討していく必要があると考える。 ○栽培活動や PTA と連携した体験学習を通して、食への関心の向上に繋げることができた。 ●外部機関による食体験については、去年も同様のことを行っているため、今年度は実施を見送ったが、次年度は積極的に連携をし、食体験の充実を図っていきたいと考えている。
	3 家庭との連携 (弁当の日の実施)	3 ○弁当の日・食の贈り物 in 夏休み ○文書による保護者への啓発	① 弁当の日・食の贈り物 in 夏休みの実施 ○ 学年に応じた遠足の日の弁当づくりや夏季休業中における家庭での調理体験を通した食への関心の向上と感謝の心の涵養 ② 家庭での望ましい食生活の啓発 ○ 定期的な、または適宜に発行する「保健だより」や「食育だより」を通した保護者への啓発	3		○夏季休業中の食の贈り物は実施率100%だった。保護者の協力に感謝している。 ●弁当の日、食の贈り物が夏休みに実施されたが、実施後の掲示等、工夫が必要である。 ○保健だよりを通して家庭での望ましい食生活の啓発も健康と併せて行うことができた。
	その他	重点目標： 保護者や地域から信頼される安全・安心な学校づくり 【手段】 1 小小・小中連携及び幼保小連携の推進	1 ○小小・小中の交流学习年4回以上実施 ○幼保小連絡協議会年2回実施	3		○幼保小連絡会議において、情報交換が行われたことはとても有意義であったと感じる。 ●幼保小と中学校とも行くと、よりよい会になるのではと感じた。 ○職場体験は、とても有意義であったが、準備に時間も必要である。 ○かおる幼稚園に1・2・5・6年が訪問して、園児と一緒に楽しく活動することができ、良い経験となった。
	2 学校運営協議会の推進	2 ○学校運営協議会の年3回実施(中学校区年2回実施)	① 学校運営協議会の実施と内容の充実 ○ 開かれた学校づくりに努めるため、学校行事と関連させた学校運営協議会を実施 ○ 学校評価の実施と運営協議会委員の意見を取り入れた改善	4	3	○計画通りに実施することができた。 ●学校運営協議会と学校、地域のつながりがもっとできる会を開催できればと思う。 ○今回、幸っこフェスタにおいて地域の方々、市議会議員、ボランティアの方々に集まってもらい、生駒・幸ヶ丘のこれからについて熟議を行った。この活動により、地域との連携がより深まったように感じる。このような活動を今後、学校運営協議会と連携して行いたい。 ●話合いの継続性と児童の話し合いの中で出た意見を地域や小林市でどれぐらい実現できるかを今後検討していく必要がある。
	3 防災教育の推進	3 ○学校における避難訓練年4回実施 ○地域と連携した防災学習の充実	① 避難訓練の実施 ○ 地震・火災・風水害(噴火)・不審者対応の4つについての避難訓練を実施 ○ 南体育館への二次避難 ○ 警察署や消防署との連携 ② 「自分の命は自分で守る」ことを主眼に、家庭や地域においても率先避難者となれるような教育の推進 ① 生駒・黒原自衛消防団・赤十字奉仕団・小林市 SVC センター(小林災害ボランティアコーディネートセンター)・小林市危機管理課防災専門員との連携 ② 災害に備えた備蓄	3		●備蓄に関して職員の共通理解が必要である。 ○避難訓練は、とても効果的であった。特に火災の避難訓練は、児童に伝えることなく行われ、煙体験まで行ったので、貴重な体験ができた。また、風水害の時には、市役所の防災訓練と連動して行うことができた。 ○災害時と同様の動きで、児童も保護者も命を守る行動ができた。今後は、地域や市と連携してより具体的な避難訓練ができるとよい。
	4 信頼される教職員の育成	4 ○コンプライアンス研修月1回実施 ○不祥事等の発生0件	① コンプライアンス意識の向上 ○ 毎月1回、コンプライアンス研修(交通安全や体罰、ハラスメント、情報漏洩など様々なテーマ)の実施 ○ 学校内から不祥事を出さないという意識の向上	4		○月1回のコンプライアンス研修を受けることで、意識向上につながった。 ○毎月の研修を受け、常に意識した行動ができている。 ○先生方の意識は高いので、今後も継続して行うことを心がけたい。

次年度の方向性についての校長所見	本校は、生徒指導面での問題もなく、大変落ち着いた学校運営ができており、児童の健全育成の観点からもとても充実している。今の状態が次年度も続くように全力で取り組んでいきたい。そんな中においても、学校職員からは4つの領域(知育、徳育、体育、食育)全てから、更に工夫、改善することでこれまで以上によいものにしたいという思いからの意見が数多く挙げられた。そこで、次年度はそれらの意見を踏まえ次の点に取り組んでいくようにする。具体的には、基礎基本の定着や思考力・表現力育成のための授業改善、ICTの効果的な活用等に取り組み、学力向上につなげていく。また、小中一貫教育、幼保小連携、家庭学習、体力向上、メディア対応、各種行事運営において、他校、家庭、地域との連携を更に工夫、充実させる必要性が見えてきたため、重点的に検討し実施していきたい。また、大きな地震があったこともあり、防災教育についてのニーズが高くなってきている。次年度西小林中学校区での取組も検討されているため、本校の現状を踏まえ企画、運営していくようにする。
------------------	---